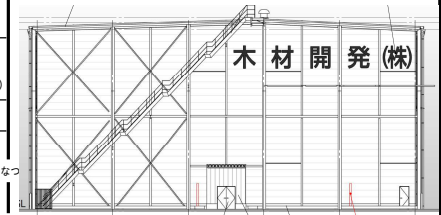


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	木材開発株式会社泉大津工場新築工事	階数	地上1F
建設地	大阪府泉大津市夕風町	構造	S造
用途地域	準工業地域、市街化区域	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年5月28日
敷地面積	10,000 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社一級建築士事務所 異種 なつ
建築面積	3,097 m ²	確認日	2024年5月28日
延床面積	3,089 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社一級建築士事務所 異種 なつみ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他
節水型機器やノンフロン断熱材を採用することで、現在の限りある資源を確保することに努めている。また、将来の用途変更可能性も考慮された、耐用年数の長い建築物であるといえる。	特になし
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 階高や空間の形状・自由さにおいて、ゆとりのある設計となっている。
Q3 室外環境(敷地内) 植栽を施している。	
LR1 エネルギー 対象外	LR2 資源・マテリアル 節水コマに加え、節水型便器を採用しており、節水に努めている。
	LR3 敷地外環境 「光害対策ガイドライン」チェックリスト項目の過半を満たしており、「広告物照明の扱い」の配慮事項についても過半を満たしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称	木材開発株式会社泉大津工場新築工事						
建設地	大阪府泉大津市夕凧町						
用途/区分	工場						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					評価対象外	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					評価対象外	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
④	エネルギー消費性能					評価対象外	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
	非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外		評価対象外			
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

報告しない

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮		-
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制		
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化		-
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用		—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない
その他			
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項	
特に配慮した事項			